

様々な分野を勉強したい、多様な文化や習慣を持った人々と交流したい。高校卒業後の進路として、海外の大学を目指す人もいます。しかし、日本の大学とは出願や受験の方法が大きく異なるため、注意が必要です。留学を指導する「アゴス・ジャパン」の松永みどりさんに、海外受験の心得を聞きました。(寺村貴彰)

海外の大学を進路の一つに

一発勝負ではない受験

日本と海外の大学受験の大きな違いは「一発勝負のみのテストがあるかどうか」と松永さんは話します。

日本では多くの大学に入試テストがあり、その結果で合格が決まります。一方、海外の大学には一斉テストがなく、求めるのは「これまでで学校生活で学んできた成果や姿勢」人となりやわかるエッセーや学校の成績、課外活動などを書類にまとめて提出し、総合的に評価されて合格が決まります。基本的には、それらをすべてオンライン上で入力・登録し

ます。必要な書類は学校によって異なるため、最終的には公式サイトで確認が必要です。ここでは米国の大学の一般的な例を紹介します。

どんな大学があるの？

専門性か進路探しか

「総合大学」「リベラルアーツカレッジ」「専門大学」の大きく3つに分かれます。最難関校の合格率は数%ともいわれます。

総合大学は、大学院の研究施設が充実した中～大規模の大学です。専門性の高い分野まで幅広い領域を学べ、スタンフォードやハーバードなどの私立大学のほか、州立難関校のカリフォルニア大学バークレー校などがあります。

リベラルアーツカレッジは比較的小規模で、アットホームな雰囲気。幅広い教養科目を受講しながら、自分の得意とする専攻領域を見つけていきます。

このほか、日本の音楽大学や美術大学のように、芸術などに関する専門大学もあります。

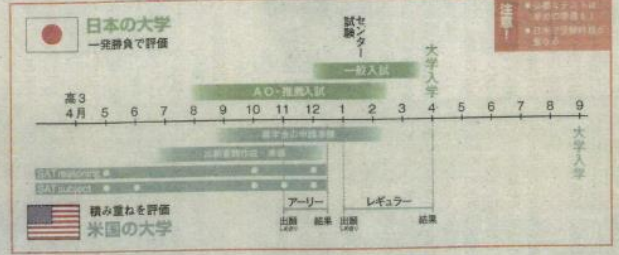
出願スケジュールは？

日本の大学との併願は難しい

高3の11月に書類を提出し、12月中旬に合格が決まる「アーリー(早期)」の1月に出願し、3月末までに合格が決まる「レギュラー」に分かれます。

日本ではセンター試験が1月にあり、そこから各大学の2次試験が始まります。日本の入試スケジュールが重なるため、一般的に併願することが非常に難しいとされます。

スケジュールが重なるため、一般的に併願することが非常に難しいとされます。米国では書類で勝負が決まるため、願書の作成には数カ月かかります。また、高3では奨学金の申請も始まるため、松永さんは「大学から求められるTOEFLやSATといった試験のスコアは、高2～高3の1学期までに決めておくことが望ましい」とアドバイスします。



奨学金は申請が必要！

各種制度 要チェック

1年間の学生生活にかかる費用(授業料や生活費)は約500～700万円。高額なため、奨学金の申請がほぼ必須となります。さまざまな財団や各都道府県、大学などが制度を実施。高3の9～2月ごろにかけて締め切りがあります。

出願には何がいるの？

日頃の成績や活動が要 適性試験は複数チャンス

- ① Common Application (共通の願書)
 - 共通願書として使えるオンライン願書で、現在約800の大学が受け付けています。マサチューセッツ工科大学やジョージタウン大学など、独自の出願サイトが指定されることもあります。
- ② 高校の成績証明書
 - 上位校では、中3以降の成績が評価されます。たとえ高1のときの成績が悪くても、高3までの伸びも考慮されます。
- ③ TOEFLのスコア
 - 英語力を測るテストの一つ。

- ④ SATのスコア
 - 米国を中心とした適性試験。日本のセンター試験のようなものです。英語と数学が課される「reasoning」と、任意で科目を選ぶ「subject」に分かれ、学校によって提出する数が変わります。年に複数回受験のチャンスがあり、最も良い点数を記入します。1000点満点で、最上位校だと1500点以上が求められます。
- ⑤ 推薦状
 - 担任や部活動の先生など、自身の長所を評価している人に書いてもらいます。学校により2～5通などの制限があります。

- ⑥ 課外活動や受賞歴
 - 研究の成果やボランティア活動、地域活動などを書きます。
- ⑦ エッセーや面接
 - 学校によってはエッセーや面接が必要となることも。

ウェズリアン大学に留学予定

上野穂晶さん (東京・渋谷教育実践渋谷高校) エッセー、100回以上書き直し

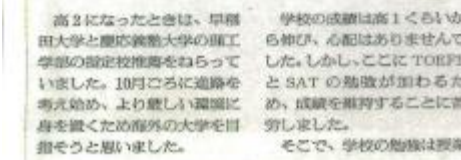


医療や法律、政策という分野に興味があったものの、日本では文系と理系の学部に分かれていて、そうした文理の勉強を断片的にできるのは米国の大学しかないと考え、高3の初めから海外の大学を目指しました。書類では、エッセーに苦戦しました。ダイレクトに結論を書いてはダメで、情報を示し、読み手に「こういう人なんだ」と判断させるのが課題です。「自己成長が促進されたり、新たな自己または他者理解につながったりした経験」でできごと・気づきについて話さない」というテーマには、異なる価値観を持つ人に出会った小志い頃の場面から始めました。「他人の価値観を受け入れるのは、時に痛みや苦しみを伴う」という社会に向けたメッセージも込めました。最初結論を決めると、伝えたいことがあきません。それでも学校やアゴスの先生に見てもらい、納得できるまで100回以上、書き直しました。学費は高いのですが、フリーマン奨学金(毎年日本から1人選ばれ、4年間の学費が全額支給される)を受けることができました。

10月からは海外の大学に進学する先輩に聞く 決断のタイミングは？ 合格の決め手は？

カリフォルニア大学バークレー校に留学予定

伊藤隆士さん (東京・学習院高等学校) 授業と留学対策 バランス大事



高2になったときは、早稲田大学と慶応義塾大学の理工学部の指定校推薦をもらっていました。10月ごろに進路を考え始め、より難しい環境に身を置くため海外の大学を目指そうと思いました。学校の成績は高1くらいから伸び、心配はありませんでした。しかし、ここにTOEFLとSATの勉強が加わるため、成績を維持することに苦戦しました。そこで、学校の勉強は授業中に覚えるよう、やり方を覚え直しました。とにかく時間がなかったので、ひたすら出そうな単語を繰り返しました。そのやり方が自分に合っていたのだと思います。海外の大学の情報は、アゴスの先生に相談したり、各大学のウェブサイトを見たりしました。大学の入試データは、日本よりも詳しく掲載されているので、ちゃんと読める自主性が求められます。



会後、カリフォルニア大学バークレー校を訪問した伊藤隆士さん(右)と松永みどりさん(左)の会話